

座敷わらしの宿

大河内健詞

[配役]

男

童子

男 (録音) 『座敷わらしに会える』という噂で有名なここ〇〇荘には、幸せを求める宿泊客が絶え間なく訪れている。
だが、それはやはり噂にすぎないようだ。
いくら待てども、私の前に座敷わらしは現れなかった
心身ともに疲れきっていた私は、吸い込まれるように眠りに落ちていった…

人影が横切る。
着物を着た子供が現れる。
布団やまくらでやりたい放題に遊ぶ。

男 こらー！！
童子 わー！ 起きてたのかっ！
男 起きないはずないだろ！ 何してんだ！
童子 ははは！ 挨拶代わりにやっさ。
男 あんた隣の部屋の子？ さっさとパパママのところに帰りなさい！
童子 ここはボクの部屋だよ。
男 何言ってんだ？ ……あ、わかったぞ。これは旅館の演出だな。下らん、こんなものに付き合ってもらえるか。
童子 えー、やだよー、もっと遊ぼうよー
男 ニセモノの座敷わらしは、さっさと帰ってください！
童子 ニセモノじゃないやい！ わらしは、わたしは本物のわらしです！
男 かむな！
童子 本物です！
男 じゃあ証拠を見せてみる
童子 ならばこれを見よ！ わ～ら～し～スペシャル！

稲妻のような音。

男 な、なんだ。

電気が点く。

男 電気点いただけ！？

童子 へっへっへ、見たか、これが霊力、わらしスペ……ゴホッ（よろめく）

男 弱！ それだけで！？

童子 これで信じてくれたね……

男 うーん……、これくらいリモコンでも点けれるし

童子 仕方がない、今度は冷房を28℃に…

男 わー、もう無理するな！ わかったよ、お前が座敷わらしなんだな。よしそれでOK。

童子 お前？ 子供だと思ってなめてんのか！（暴力を振るう）

男 うわ普通に痛い！ ちょ、ちょっと待って、座敷わらし様、お目にかかれて光栄でございます。

童子 そうこなくっちゃ。

……で？

男 ん？

童子 え、わざわざこんな辺鄙なとこまで来たからには、何か理由があるんでしょ。

男 それはそうだけど、え、言うの？

童子 あーあー、そういうこと。僕を見るだけで幸福になれると勘違いしてるんだ。

男 違うの？

童子 もう、これだから困るんだ。人間の常識は霊界の非常識なの。はいこれ。

男 名刺？

童子 オフィシャルにやってるから。

男 心理カウンセラー、座敷・C・童子。このCって何？

童子 チャイルド。

男 チャイルドわらし？ 同じこと二回言ってるよ。

童子 細かいこと気にすんなよ。さあ、悩みを話して。

（眼鏡をかけ、カルテ的なものを出す）

男 ガキに悩み相談するってのはなんかなあ……

童子 あ？ なめてんのか？（暴力を振るう）

男 うわ普通に痛い！ ご、ごめんなさい。すべてお話します！

童子 最初からそうすればいいんだ。

男 何この負けた感じは……

童子 えー、ここで得た個人情報には目的以外には使用しませんからご安心ください。

男 そこはちゃんとしてんのか。

あのですね、私、自分で言うのも何ですが、かなり仕事ができる方でして、

童子 またまたー！

男 ……それでまあ、順調に昇進しまして、この若さで課長にまでなっているのですが、

童子 やるねー！

男 …今度は、中国の方の支店長をやってみないかと、言われているんですが
童子 ワーオ！
男 あの！ 合いの手は要らないんで！ ちゃんと聞いてます？
童子 うん！ 聞いてるよ！
男 ほんとですか……まあ、このまま行けば役員は間違いなしというところなんですけど……
経理部に、佐藤さんという、まあ、いわゆる美人がいますね、ちょっとその方と、た
だならぬ関係になってしましまして、そこでちょっと問題が…。
童子 (合いの手を必死にこらえる)
男 あの、そんなに我慢するくらいなら、合いの手入れていいんで、
童子 ケイリブー！！
男 なんだその合いの手は！
童子 役員！ 美人！ だだならぬ！
男 うるさーい！ もう合いの手禁止！
童子 ちえっ、わかったよ
男 …えっとどこまで話したっけ。
童子 ただならぬ。
男 ああそう、ただならぬね。まあ仕事ができ、将来有望。身長も高いし、顔立ちは端正
だし、トークは上手くて、実は細マッチョ。これまで何人もの女性にアプローチされて
いましたが、仕事の障害になると思い、深入りはしてこなかったんですが。ま、一晩だ
けってのは何度となくありましたけど、まだ独身でいたいかなー、なんて……
童子 (聞いていない様子)
男 聞いてんのかー！
童子 き、聞いてるよ。えーと、カレーパンの美味しい店の話でしょ
男 全然聞いてない！
童子 お前の話は聞き飽きたんだ！ 総務部の田中さんの話をしろ！
男 経理部の佐藤さん！ ぜんぜん違うわ！ うろ覚えにもほどがあるだろ。でね、その佐
藤さんが、実は社長の愛人なんですよ。
童子 シャチョウ…？
男 あー、社長っていうのは、霊界で言えば閻魔大王みたいな人。
童子 あ、知ってるんでそういうのいらぬです(笑)
男 てめー！
童子 つまり、あなたは佐藤さんに本気で恋をしてしまった。そうですね。
男 はっ…そ、そうです。
童子 初めは一晩だけのつもりだった。
だが気づけばすっかり佐藤さんの虜になってしまった。
佐藤さんのどこにそんなにも惹かれるのですか。
男 今までの女は、私の将来性や、ルックスに惹かれているだけの軽い女だった。だけど佐
藤さんはまったく違うんです。私を心から愛してくれている、そんな感じがするんです
……。
私のためならすべてを投げ出してもいい。社長との関係は切る、そう言ってくれました。
童子 要約すると、今までの女は社長との関係を切るってことですね。

男 要約できてない！ 最初と最後つなげただけじゃねえか。佐藤さんは私を心から愛してくれているんです。

童子 なるほどー。

男 しかし、今まで社長の愛人に手を出した社員はすべて、オイミヤコン支店に飛ばされているんです。

童子 オイミヤコンといえば、マイナス71℃の最低気温を記録した、世界一寒い町ですね。

男 変なとこ詳しいな。

童子 霊界では常識です。

男 私は冷え性なので、オイミヤコン赴任は死を意味します。
言うなれば、愛か、さもなくば死か、究極の選択を迫られているのです！

童子 ハムレットかい。まあ、愛か死かってのはちょっと大げさだね。
要するに仕事の成功か、Gカップかで悩んでいるってことですね。

男 そうなんです佐藤さんGカップ、、、ってなんで知ってるの！？

童子 この霊界メガネさえあえば、お前の心の中は全部お見通しだ！

男 え、見えてるんだったら、言った意味ないじゃん！

童子 お見通しだ！

男 仲間由紀恵の真似したいだけだろ！

童子 お見通されか！？

男 しつこいな！ 似てねえよ！ 恥かかせやがって、もう許さねえぞ！ ネットでこの旅館にひどい口コミ書いてやる！
サービス0点、清潔度0点、従業員の態度最悪！ 早くつぶれて欲しいです！ はい送信～！

童子 ひ、卑劣な！ これがインターネット社会の闇か！

男 大人をなめるなよ。

童子 ごめんなさい……ねえ、トカゲの黒焼あげるから許して。

男 こんなときだけ妖怪っぽくなりやがって。要らねえよ。

童子 （めそめそ泣き出す）ううう……また要らないって言われた……もう嫌だよ……うううう

男 おい、なんだよ急に

童子 うわー（しがみついて泣く）

男 おいおい……どうしたんだ急に。

童子 これを読め。（紙切れを出す）

男 座敷わらしの起源として、飢饉の際、口減らしのために間引かれた子供の霊であるという説がある。
出典、ウィキペディア……え、そうなの……

童子 ううう……

男 す、すまん。さっきはひどいことを言ってしまった。遊びたかっただけんだな。
おじさんが悪かった、許してくれ。

童子 じゃあ、友情の証として、トカゲの黒焼きを食べて。

男 おお、それくらいなんでもない（食べる）

童子 どう？

男 うえ……めっちゃ苦い……

童子 へー、黒焼きはやっぱ苦いんだ

男 自分も食ったこと無いのか

童子 じゃ、そろそろおいとましましょうかね。

男 えー！ まだ何も解決してないじゃん！ 私はどうすればいいんですか？

童子 そんなこと子供に聞くんじゃないよ。

男 えー！

童子 でもひとつ言えるのは、このメガネで見た限り、佐藤さんは霊界レベルから見てもかなりのいい女だ。
まあこれはおじさんの記憶の中のものだから、多少美化されてるかもしれないけど。
(ニヤニヤする)

男 え、それ、いつでも記憶再生できるの？

童子 そうだよ。

男 そのメガネ私にください。

童子 それはならぬ。これは私が個人的な娯楽に使用する

男 それ深く聞かないほうがいい？

童子 あ、言い忘れてたけど、ここであったことは決して他人には言ってはいけないよ。もし言ったら、

男 言ったら……

童子 がんおよび、呼吸器系、循環器系疾患のリスクが5倍になる。

男 煙草かよ。でもリアルに怖！

童子 じゃあね、アディオース！

男 また会えるのかい？

童子 朝起きて、布団がありえないくらいに乱れているのは、寝ている間に僕が現れたと思っ
ていい。

男 あれは君の仕業だったのか。

童子 カオス布団は基本的な技だ。

男 あれ、カオス布団っていうんだ。

童子 他にも、旅館で浴衣で寝たとき、何度直しても浴衣がはだけてしまう現象。
風呂から帰ったら勝手に布団が敷かれている現象。田舎のテレビのチャンネルが異様に
少ない現象。
それも僕の仕業だ。

男 そうだったのか、じゃあ、夜中に何度もおしっこがしたくなるのも……

童子 そいつは医師に相談してくれ！（去る）

男 ……行ってしまった。やっぱ病院か……何だか疲れた。

布団を敷きなおして寝る。

暗転。

男 ……ん……もう朝か。
あー、変な夢みたな……

布団が超絶的な状態になっている

男 やられたー！！